
【未定】

甘栗

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【未定】

【Nコード】

N2565N

【作者名】

甘栗

【あらすじ】

未定。

きつと教師と生徒。

会い、会い、違い

今日は天気も良いし、散歩でもしようかと思って家を出たんだ。何一つ変わらない景色を眺めながらゆったりとした歩調で歩く。すると、曲がり角に人の影。

見てみれば、スーツを着込んだ男性が地図らしき紙切れを手に周囲を見渡していた。

これは、ひよつとすると道に迷っているのだろうか。気になって俺は、声を掛けてみることに。

「あの、何かお困りですか…？」

少しだけ高い位置にある顔を見上げて尋ねる。

男性は、無表情のまま口を開いた。

「…ああ、こちら辺にある御子柴大学に用があるんだが…」

え。

聞き慣れた名前の大学名に思わず口をだらしなく開けてしまう。俺が呆気にとられている間にも男は、紙切れを眺めていた。

「あの…よければ俺が案内しましょうか？」

「…いいのか？」

「はい。道は分かってますし…」

何を隠そう、御子柴大学とは俺が毎日通っている大学だ。男性は少しだけ悩んだ後、ちらりと俺の顔を見た。

「では…悪いな、頼む」

「いえ。じゃあ、行きましょうか」

俺達は並んで歩き始めた。

俺は丁度良い暇潰しになるな、なんて能天気な事を考えて。

これが、この出会いがこれからの人生を大きく左右させるものとも
知らずに――

男の正体、その他諸々

「安村じゃねえか！…その男、誰だよ」

「よお、鈴木。久し振り。この人は…道端で偶然会った人」

嬉しそうに口角を上げるのも一瞬。口元を引き攣らせると強面な顔を更に凄ませ、訝しげに俺の隣の男性をちらちら見ている——というよりも、ガンをつけている俺の親友の鈴木。一応、不良の部類に入るであろう彼は、どういうわけか平々凡々な俺に何かとよく絡んでくる。切欠は忘れたが、結構イイ奴だ。

「テメエ…犬猫だけじゃなく今度はついに人間まで拾ってくるようになったのかよ！？その何でも拾ってくる癖、何とかしろよな」

…拾ってくるって。

呆れ返った様子の鈴木はそれでもまだ威嚇するように男性を鋭い眼差しで捉えており、警戒を緩めない。ちらりと隣を見上げれば、気にも留めない様子で涼しい顔をして辺りを見回していた。鈴木の殺気を一身に受けながらこれとは…やるな、この人。

「あ、そうそう。用事あるのって何処ですか？良ければ案内しますけど…」

「安村！テメエがこの男にそこまでする義理ねえだろ。放つときや

「いんだよ」

「いや、暇だし丁度良かったんだよ」

「学校にも来てねえくせに暇とか抜かすなアホ」

「いたたた。」

それを言われちゃあ、お終いですわ。

少しかだけ説教モードの鈴木にへらりと笑いながら、冗談ですまないかなあなんて考えていると隣で動く気配。

「もうここで大丈夫だ。感謝する」

男性が、無表情で言葉を発すると背を向けて去っていった。その様子を眺めながら鈴木がやっと思ったか、と鼻をならした。

「なあ、そんなに初対面の人間を毛嫌いする必要あるか？」

「あ？…生理的に無理なんだよ。澄ました顔しやがって！」

「確かに…無表情に近い感じだったな。でも元が格好良いから許されんだよ、きつと」

普通の人間…例えば俺とかなら無愛想、で終わるけれどあの人はなんかこう…様になっていたというか。

「あんな奴のどこが。テメエもバイト帰りだろ、あんな奴構うな」

「妬くな妬くな。そんなに俺が好きかね」

「ばっ…！！何言ってんだ気色悪い！！！」

「あ、ちよつと傷ついた」

ちよつとした冗談で言っただつものなのに、冗談の通じなかつたらしい鈴木は怒りから分からないが、顔を真っ赤に染めて勢いよく身を引くというオーバーリアクションを取りだした。…そんなに全面拒否されるとは思ってもしなくて少しだけ俺の硝子のハートがチクリと痛んだ。全く、大袈裟な奴め。

とりあえず、早く家に帰って休めと言った鈴木 of 気配りに素直に従い、俺は再び先程の歩道を歩いている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2565n/>

【未定】

2011年10月7日20時04分発行